

そのときが今を決めた

北村弘行

❖ 青春のただなか

2008年7月、近畿は祇園祭を目前に30℃を超える気温が報道されている。昨年大病を患った身には応える。

1945(昭和20)年、太平洋戦争でわが国は追い詰められ、3月14日に大阪は空襲により、13万戸が焼失し、4月1日アメリカ軍が、沖縄本島に上陸。6月23日沖縄守備隊全滅。戦死9万、一般国民死者10万を数えた。

1945年7月、函館で学生生活を送っていた。18歳の夏であった。

❖ 青函航路壊滅する

7月14日、養魚実習で苫小牧近郊の、滞在していた農家から帰校して待機中のこと、アメリカ艦載機により、函館が空襲を受けた。函館山の中腹にあった、下宿からはグラマンの操縦士が見え、機関砲の掃射で生きた心地がしなかった。函館湾内に停泊中の青函連絡船などがロケット攻撃を受け、沈没した船舶は9隻となり、青函航路は壊滅した。

❖ 樺太(サハリン)へ

7月上旬に樺太へ寒天原藻の分布調査に行く内報が知らされていた。7月20日に稚内に到着し、大泊へ渡る稚泊連絡船の出港日時を、棧橋駅まで確認に出かけていた。連絡を受け、防風岸壁から樺太丸？に乗船して8月1日に大泊入港、目的地の遠淵湖に向かった。日本の敗戦まで、あと15日であった。

❖ 日本の敗戦、太平洋戦争の終了

8月2日、寒天原藻の分布調査始まる。湖畔にある宿舎の隣には、千歳海軍航空隊遠淵分遣隊の基地があった。当時、郵便物は配達が行かなかったが、大湊要港への連絡便に託送することができた。8月14日、分遣隊から日本敗戦の連絡を受けた。8月15日正午に戦争終結の詔書が放送された。

❖ そのときが今をきめた、樺太からの脱出

引率教授、学生15名は遠淵湖から海上を大泊に引き返し、市内の寒天会社で棧橋までの状況を聞いたうえ、会社から手配の荷馬車に荷物ともども乗り込んだ。手綱は級友の一人がさばくことになって会社に別れを告げた。

大泊は広い道幅の坂道が棧橋まで続いていた。途中で手綱が解けた。馬を制御する手立てがない。皆坂道でスピードが出た馬車から、転げるようにして飛び降りる。やがて街にある電柱に当たり、やっと停まった。一人が頭を打ったのか意識が戻らず、避難で大混雑の市内で医院を探すのに右往左往した。幸い軽い脳震盪と判り、再び棧

橋へ。

大泊棧橋では乗船予定の泰東丸がすでに離岸しており、見ると3隻が南へ進んでいる。そのしんがりが船尾に泰東丸と船名を見せていた。乗る船がない。皆に落胆の声漏れた。

棧橋には海防艦が1隻、ドラム缶で書類を焼却する作業を行っていた。藁にもすがる気持ちで便乗かたを要請した。約1時間後、書類の処分が終わり次第稚内へ出港とのこと。甲板の砲塔の陰にかたまっているようにと了解を得た。他の引揚者と共に海防艦で北海道の土を踏むことができた。稚内から函館まで臨時列車に便乗し、無事に函館駅に着いたのは22日の夜であった。

❖ 引揚げ船の行方

大泊棧橋で乗り遅れた泰東丸ら3隻の引揚げ船はどうなったのか。3隻は国籍不明の潜水艦により、撃沈され、死者は1708人になっていることを知ったのは2005(平成17)年8月20日付朝日新聞「オピニオン」欄に矢野牧夫氏の記事を見た結果である。記事には、《殉難無念の 1700 人語り継ぐ施設を》として、終戦から 1 週間が過ぎた 1945 年 8 月 22 日、北海道留萌沖で、樺太(現サハリン)から緊急避難する計 5 千人人余りを乗せた 3 隻の引揚げ船が国籍不明の潜水艦に襲撃された。小笠原丸、第二新興丸、泰東丸の3船だ。(中略)明け方から午前 10 時頃までの間に相次いで襲われたのだ。小笠原丸と泰東丸は瞬く間に沈没、第二新興丸は大破しながらも留萌港にたどり着いたが、計約 1700 人も人命が失われた。国籍不明といわれた潜水艦はその後、ソ連太平洋艦隊所属だったことが判明した。云々。

❖ 物語は続く

週刊朝日 2008. 5. 23. 《昭和からの遺言》の記事を見ると、「当時 5 歳の納屋幸喜少年が母、兄、姉と敷香(シスカ)から避難し、大泊で引揚げ船小笠原丸に乗った。母親は船に弱く、乗り込んですっかり船酔いで、一家は小樽までの予定を稚内で下船した。そのまま乗船を続けていけば、留萌沖で沈んだままだ。」北海道に引揚げてきた納屋幸喜少年は、裸一貫、稽古でたたきあげ、不世出の名横綱大鵬となるその人である。

小笠原丸は大泊棧橋で乗り遅れた、泰東丸の前を航行していた船ではないか。

❖ 青春只中の一齣

敗戦から 63 年の歳月が過ぎてきた。操縦士の顔が見えたグラマン艦載機。撃沈される青函連絡船。危機も判らず樺太へ渡航。敗戦。大泊の混乱。棧橋で泰東丸に乗り遅れ。などなど。青春只中にあった半月ほどの激動がよみがえってくる。 (了)